

---

---

所 属 : 国際学部

職・氏名 : 准教授 武藤 彩加

URL : <http://intl.hiroshima-cu.ac.jp/modules/intl/professor/mutou.html>

研究キーワード : 五感、生得性、経験的基盤、言語普遍性、身体性

---

---

#### ■研究テーマ

##### ①テーマ：複数の言語における「共感覚的比喩」に関する研究調査

概要：五感に関する比喩について、言語の違いを超えて共通する点が存在するのかどうか、また異なる点とはいかなるものなのかという点を明らかにしたいと考えています。

##### ②テーマ：複数の言語における「味を表す表現」に関する研究調査

概要：味を表す表現について、母語話者を対象とした調査に加え、国内では各地域のローカル CM に現れる方言や表現の特徴について、また海外の食品 CM ついても調査を行っています。

##### ③テーマ：海外における効果的な日本語教育に関する基礎研究

概要：来日経験が無いのにもかかわらず「自然な日本語」能力を身につけている学習者を対象とし、その動機づけや学習スタイル、学習環境などについて調査し分析をしています。

##### ④テーマ：五感を表す語の意味分析

概要：多義語のより中心的な意義と他派生義とがどのような関係で結ばれているのかという点について、認知意味論の枠組みで意味を分析し記述しています。

#### ■研究テーマの応用例

- (1) 食品などの新製品開発
- (2) マーケティング戦略に関わる消費者調査への活用
- (3) 研究成果を広く日本語教育の現場へ還元するなど

#### ■主な著書、発表論文

##### 著書

- (1) 瀬戸賢一,小森道彦,山口治彦,辻本智子,小田希望,山添秀剛,武藤彩加,安井泉(2003),『ことばは味を超える－美味しい表現の探求』(共著),海鳴社,2003年3月,pp.241-300.
- (2) 大橋正房,武藤彩加,山本真人,爲国正子,汲田亜紀子,渋澤文明,小川裕子(2010),『「おいしい」感覚と言葉－食感の世代』(共著),株式会社 B/M/FT 出版部,2010年3月,pp.66-69.
- (3) 武藤彩加(2015),『日本語の共感覚的比喩』(単著),ひつじ書房,2015年2月,総ページ434頁.
- (4) 北村紗衣編(2016),『共感覚から見えるもの－アートと科学を彩る五感の世界』(共著),勉誠出版,2016年3月,pp.379-409.
- (5) 大橋正房他(2016),『ふわとろ SIZZLE WORD 「おいしい」言葉の使い方』(共著),BMFT 出版部,2016年9月,pp.166-182.
- (6) 広島市立大学国際学部<際>研究フォーラム編(2017)『<際>からの探求:つながりへの途』(共著),文真堂,2017年2月,pp.99-138.

##### 論文

- (1) 武藤彩加(2001),味覚形容詞「甘い」と「辛い」の多義構造(単著),『日本語教育』第110号,日本語教育学会,2001年7月,pp.42-51.

- (2) 武藤彩加(2002),「おいしい」の新しい意味と用法ー「うまい」「まずい」と比較してー(単著),『日本語教育』第112号,日本語教育学会,2002年1月,pp.25-34.
- (3) 武藤彩加(2004),「共感覚的比喩(表現)」の動機付けに関する整理と分類(単著),『日本認知言語学会論文集』第4巻,日本認知言語学会,2004年9月,pp.99-108.
- (4) 武藤彩加(2009),9つの言語における「共感覚的比喩」ー「触覚を表す語」と「視覚を表す語」を中心に(単著),『日本認知言語学会論文集』第9巻,日本認知言語学会,2009年5月,pp.181-190.
- (5) 武藤彩加,副島健作,山元淑乃(2010),共感覚的比喩の「視覚」表現ーロシア語とフランス語を中心に(共著),*KLS 30 (Proceedings of Kansai Linguistic Society)*,関西言語学会,2010年9月,pp.203-214.
- (6) Ayaka MUTO (2010), An Examination of Synesthesia Metaphor in English and French (単著), *Proceedings of the 2010 Seoul International Conference on Linguistics (SICOL-2010)*, June 2010, Accepted as a full paper, in CD-ROM (10pages).
- (7) 武藤彩加(2011),スウェーデン語における「味を表す表現」の収集と分類(単著),『日本認知言語学会論文集』第11巻,日本認知言語学会,2011年6月, pp.234-244.
- (8) 副島健作,武藤彩加(2012),日本語学習者の「テクスチャー表現」の使用についてー沖縄の留学生を対象に(共著),『ヨーロッパ日本語教育』第16号,ヨーロッパ日本語教師会(AJE),2012年6月,pp.166-170.
- (9) 副島健作,武藤彩加(2013),日本語学習者による「テクスチャー(食感)表現」の使用(共著),『東北大学高等教育開発推進センター紀要』第8号,東北大学高等教育開発推進センター,2013年3月,pp.27-38.
- (10) 武藤彩加(2013),韓国語における「味を表す表現」の類型化ー日本語と韓国語の比較を通して(単著),『韓国日本語学会論文集』第37号,韓国日本語学会,2013年9月,pp.17-35.
- (11) 副島健作,金城尚美,武藤彩加(2014),中国における日本語学習者の日本語力に影響を及ぼす外的学習者要因(共著),『国際文化研究科論集』第22号,2014年12月,pp.19-31.
- (12) 副島健作,李郁恵,武藤彩加(2015),日本語学習者の日本語力と学習ストラテジーおよび動機づけとの関係ー中国とロシアの大学生の比較ー(共著),『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第1号,東北大学高度教養教育・学生支援機構,2015年3月,pp.37-47.
- (13) 武藤彩加(2016),日本語におけるテクスチャーを表すオノマトペースウェーデン語と英語,および韓国語と比較してー(単著), *Journal CAJLE Vol.17*, Canadian Association for Japanese Language Education,2016年7月,pp.64-86.
- (14) 武藤彩加(2016),英語母語話者によるおいしさの表現ー日本語との比較を通して(単著),『広島国際研究』22号,広島市立大学国際学部,2016年11月,pp.105-115.

#### ■想定される連携先

- ・情報関連企業 ・地域団体,地方自治体
- ・公的研究機関,教育機関 ・NPO,NGO